INTERVIEW

南相馬市立総合病院産婦人科 副診療部長
安部 宏 先生

地域のお産は私が守る！

聞き手：山田隆司　地域医療研究所長

ジェネラリストとして産婦人科の道へ

山田隆司（聞き手）　今日は南相馬市立総合病院に安部宏先生をお訪ねしました．先生とは初対面なのですが，昨年「震災から10年」という「月刊地域医学」の特集で先生に執筆していただき，先生が自らの命を削って赤ちゃんの誕生に力を尽くしておられた当時の状況を読ませていただき，感銘を受けました．今日もここへ来るまでに双葉町や浪江町などを通り過ぎ，そのまま時が止まったような状態を目の当たりにして，胸の詰まる思いがありました．

でも一方で，この病院に入って来た時に，３人の赤ちゃんをベビーカーに乗せたご両親とすれ違って，新しい生命の誕生を見てやはり明るい兆しを感じることができ，先生がされてきたことに改めて思いを馳せました．

今日は先生がここに至るまでの経緯と，先生の地域医療への思いについて，お話を伺いたいと思います．まずは先生のご経歴を簡単に紹介していただけますか．

安部 宏　私は地元の県立双葉高校を卒業して，平成３年に自治医科大学に入学，平成９年に卒業しました．福島県の20期です．福島県は自治医大病院が研修病院だったので，私は大学に残りました．そのころは今の臨床研修制度ができる前で，他大学の卒業生は全員どこかの科に所属してストレート研修をしていましたが，自治医大の卒業生だけはローテート研修をさせてもらいました．研修２年目の最後の４ヵ月間は南会津

病院で，内視鏡と超音波の研修をしました．そして３年目に１人診療所に赴任しました．福島県には離島がないので，１人診療所とは言っても，いざとなったら紹介したり病院に送ることができたので，そこは他県とは異なる点かなと思っていました．

その間，何科に進もうかと考えた時に，学生時代や研修時代に見た分娩のシーンが心に残っていたこと，また自分が考えているジェネラリストとしては産婦人科が特別だなと思っていました．産科は合併症を持つ内科ですし，婦人科は骨盤外科で外科医，そして新生児を診られるという小児科的な部分があります．なので産婦人科が，自治医大の卒業生としてジェネラリストとして一生やっていけるのではないかなと考えて，５年目から産婦人科の道に進みました．

山田　初期研修のあと２年間のへき地勤務のうちに産婦人科を志したということですね．

安部　はい．５年目から福島県立医科大学の産婦人科で３年間後期研修を受けて，平成16年から４年間南会津病院の産婦人科に勤務．そこで11年間の義務が終了しました．その後は地元に帰りたいという希望があったので，平成20年にこの病院に赴任しました．

山田　そのときは他に産婦人科の先生はいらっしゃったのですか．

安部　はい．もう１人産婦人科の先生がいて２人体制でした．ただ途中からその先生が開業するために辞められて，常勤は私だけでプラス１人は福島医大からの非常勤という形になりました．

山田　南会津病院でも先生は１人だったのですよね．

安部　そうです.「本州一広い区域を担当する産科医」ということで「FLASH」という雑誌に取り上げられたことがありました．南会津って神奈川県と同じ面積なのですね．そこで唯一の産婦人科医でした．

山田　そこに４年いらしたのですね．

安部　４年いました．

山田　先生が去った後は大丈夫だったのですか．

安部　いえ，つないでくれる人がいなくて閉鎖してしまいました．そこに残るか閉鎖して出てくるかだったのですが，４年間１人でいて，辛いところもあって地元に戻りました．

山田　お産の緊急時に誰の手も借りられないのは大変ですよね．

安部　帝王切開や手術は外科の先生とやっていました．

山田　南会津病院では以来産婦人科は閉鎖されたままですか．

安部　そうです．大変申し訳ないのですが．

山田　一方で，ここに赴任された時は喜ばれたでしょうね．ここには以前は福島医大の先生たちがいらっしゃったのですか．

安部　はい．先述のように，最初は２人でしたがもう１人が開業のために退職されて，私１人になってしまいました．この地区の総合病院の産婦人科はここしか残っていないので，この地区で産婦人科の何かがあれば，私が受けるしかないという状況になってしまいました．

山田　カバーする人口はどのぐらいですか．

安部　この市と隣の相馬市を合わせて，大体10万人を診る感じになっています．

山田　この地区だけで分娩数は結構あるのですか．

安部　今年度が270件ぐらいで終わりそうです．それを今２人でやっています．

山田　今は２名になられたのですね．でも震災の時には１人産婦人科医という状況だったわけですね．